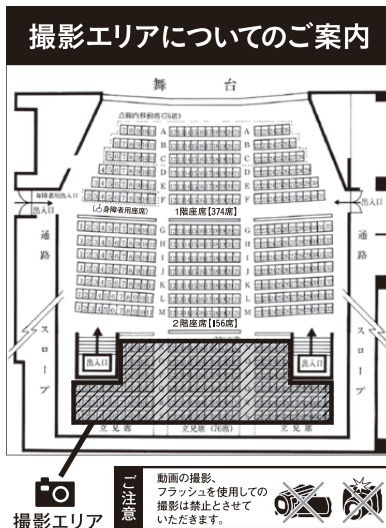


# 「広島神楽」定期公演へようこそ!

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。  
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。  
ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- (1) 座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
- (2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
- (3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険な場合**がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
- (4) 撮影について  
→写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。  
※ビデオカメラ・携帯電話等での**動画撮影は禁止**します。  
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。



11月4日のタイムスケジュール

出演：山王神楽団（北広島町）

19:00～開演

19:05～第一幕『日本武尊』  
(おおよそ40分)

～幕間(休憩)～

20:00～第二幕『八岐大蛇』  
(おおよそ40分)

20:45～記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。

本日の記念に是非ご参加下さい。  
また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。  
(舞台へは靴を脱いでお上がください。)

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

さんおうかくらだん

## 山王神楽団プロフィール ～山県郡北広島町～

明治中期に地元、山末神社氏神祭に神楽を奉納するため、神社周辺の人々によって「下本地神楽団」として発足した当神楽団は、昭和25年、神社に奉られている「山王権現」から名を頂き「山王神楽団」となり、現在に至ります。近年においては、ロシア・サンクトペテルブルグ建都300周年に千代田混成神楽団の一体体として参加しました。また、日韓芸術交流公演で韓国のコリアンファンタジーとともに、国立劇場にて公演させていただいたり、県外の公演にも力をそそいでおります。

練習の都度、あるいは公演の都度「演技の粋をかたむけて」を目標に、今後も芸の修得に取り組み、伝承、保存に努めてまいります。ご支援、ご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

### 第一幕『日本武尊』(やまとたけるのみこと)

※演目が変更になりました。

あらかじめご了承ください。

人皇・第十二代・景行(けいこう)天皇の皇子・倭男具那命(やまとおぐなのみこと)は、筑紫一円に強大な勢力を持って朝廷に背く川上梟帥(かわかみたける)征伐の任を受け、九州へと向かいました。

折しも川上梟帥の館では、新築の祝いの宴が催されていました。倭男具那命は女装してその宴に紛れ込んで川上梟帥に近づき、酒を勧めながら機会を待ち、見事、川上梟帥を討ち伏せました。

川上梟帥は「西国において我より強い者などなしと信じていたが、命こそ日本一の武勇者なれば、これからは我が名一字をとって『日本武尊』と名乗りくださいや」と言い残して絶命するという物語です。

【出演】	大太鼓 … 藤岡 進 矢	倭男具那命 … 中川 彰 大	匪 の 竹 … 藤田 一 秀
	小太鼓 … 前 翔 太	乙 彦 … 増野 夏 海	仮 の 竹 … 芳 信 智 也
	手打鉦 … 井 上 亮	川上梟帥 … 栗 栖 隆 治	紅 葉 姫 … 山 村 真 理
	笛 … 川本 喜美代		

### 第二幕『八岐大蛇』(やまたのおろち)

古事記の神話を神楽化したもので、昔、高天原を追われた須佐之男命が、出雲の国・簸の川上で嘆き悲しんでいる足名椎(爺)・手名椎(婆)の老いた夫婦と奇稻田姫(くしいなだひめ=八人目の姫)に出会い、その訳を聞き、命は大蛇退治を決意します。

足名椎・手名椎に毒酒を造らせ、やがて現れた大蛇はその酒を飲み酔い伏して眠ってしまいます。命は酔い伏した大蛇を大格闘の末退治します。

この時、大蛇の尾から出てきた一降りの剣を、命は「天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)」と名付け天照大御神に捧げ、めでたく奇稻田姫を妻とするという物語です。

【出演】	大太鼓 … 中川 克 也	須佐之男命 … 前 翔 太	足 名 椎 … 藤田 英 昌
	小太鼓 … 井 上 亮	七人目の姫 … 増野 夏 海	手 名 椎 … 平 田 俊 文
	手打鉦 … 是 角 健 二	奇稻田姫 … 増野 夏 海	大 蛇 … 可 能 な 限 り
	笛 … 川本 喜美代		出 演 頂 き ま す

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。